

【特別講演】身体を中心とした多感覚知覚

北川智利

NTT コミュニケーション科学基礎研究所

私たちが環境の中で適切に行動するためには、外界を知覚するだけでなく、自身の身体の状態も知覚し、外界を自分の身体を中心として把握する必要がある。このような心理的過程が単一の感覚モダリティからの情報のみで行われることはない。視覚、聴覚、触覚、自己受容感覚などの異なる感覚モダリティからの情報が統合されることによって、はじめて外界と身体の関係が把握できる。本講演では、異なる感覚モダリティ間で特有に観察される現象をいくつか紹介し、知覚の身体性について考察していきたい。